

# 対照研究

神田外語大学大学院教授 奥津敬一郎

この新コーナーでは、これから研究を目指す海外の日本語の先生方のために、日本語学・日本語教育の研究についての情報をおとどけます。  
第1回のテーマは対照研究です。

## I. 対照研究とは

世界には多くの言語があります。**対照研究**または**対照言語学**というのは、現代の諸言語の2つまたはそれ以上の言語を、音声・文法・意味・談話構造・誤用論など種々な面について、またそれらを総合して、比較研究するものです。

では何のための対照研究でしょうか？

第一は言語そのものの研究のためです。私の専門分野は日本語の文法ですが、日本語をただ内側から見るだけでは十分ではありません。他の言語と比べてみると、日本語がいっそうよく見えてくるのです。

第二は外国語教育に役立てるためです。日本語教育について言えば、日本語教師は日本語を知っているだけでは十分ではありません。学習者の母語も知っていれば、いっそう効果があがります。

さて、この『日本語教育通信』をお読みになる方々は、主に海外で教えている（日本人から見て）外国人の日本語教師です。するとこの方々にとっては、日本語が外国語となります。ですからこの方々は、大学などで日本語についての専門的な知識を学習するわけです。この点では、むしろ、日本人よりも日本語をよく知っていることもあります。ところがこの方々は自分の母語、それは同時に学習者の母語でもあります、それを案外知らないのです。そこで外国人の教師は自分の母語についての学問的な知識が必要になります。さらに日本語と母語との対照研究も必要です。

同じことは日本人の日本語教師についても言えます。日本人だからと言って、日本語がよく教えられるとは限りません。私も経験がありますが、実際に教えてみて、学生からの質問に答えられず、自分のことばを自分がいかに知らないかに気がつきます。だからまず日本語につ

いての学問的な知識が必要になります。これは日本語教師として必要条件です。しかし日本語学の知識だけでは不十分です。できれば学習者の母語についても同様な知識が必要です。その上で日本語と他の言語とを比較研究し、その違いや共通点などが分かれば、日本語自体もよりよく知ることになり、日本語教育にも役に立ちます。これが対照研究です。

こうして日本人教師も外国人教師も、日本語を効果的に教えるには、日本語と学習者の母語との対照研究が必要になります。

例えば学習者はよく日本語をまちがえます。いわゆる**誤用**ですが、なぜまちがえるかの原因が分かれば、教えるのに役に立ちます。誤用の原因の一つは母語の干渉と言われるもので、学習者の母語の規則をそのまま日本語にも当てはめて、日本語を話すような場合です。例えば「私の眼鏡」は中国語で「我的眼鏡」ですが、日本語の「の」は中国語の「的」にあたります。ところが日本語で「美しい富士山」は、中国語では「美麗的富士山」ですので、中国人学習者は「美しいの富士山」というまちがいをよくします。つまりこの場合も、中国語の「的」を、そのまま日本語に直訳して言うてしまうのです。日本語教師が中国語を知っていれば、そのまちがいの原因が分かり、正しく教えるのに役立つでしょう。このような**誤用研究**も対照研究と関連して重要です。

対照研究は、戦後、特にアメリカで盛んになりました。世界各国の英語教育に役立てるために、**構造主義**の言語学者たちが、世界の諸言語を研究し、英語との対照研究をしました。それに基づいた英語の教材も作られました。**対照研究**という術語はこの時につくられたそうです。

その後**変形文法**とか**生成文法**とか呼ばれる言語理論が盛んになりましたが、この理論は世界の諸言語の基礎にある言語普遍性と、諸言語の違いの研究を目指しており、

これも対照研究の一つと言ってよいでしょう。

日本語教育が盛んになるにつれて、日本でも海外でも日本語と諸外国の言語との対照研究も盛んになり、言語によっては多くのしかもレベルの高い研究がなされました。

次にその諸研究を簡単に紹介しましょう。

## II. 日本語と諸言語との対照研究

現在、日本語学習者は、中国・台湾・香港・韓国・インドネシア・マレーシア・フィリピン・タイなどのアジア諸国で非常に多いようです。

これらの国の言語の中で、中国語と韓国語は、日本ではテレビやラジオの番組もあり、学習者も多く、研究も盛んです。また本国の大学での中国人・韓国人の日本語研究者・日本語教師も多く、日本人・外国人双方からの対照研究がかなりあります。日本への留学生も中国・韓国からが最も多く、修士論文・博士論文ももうかなり出ていますし、書物として出版されたものもあります。

欧米の国々、アメリカ・イギリス・ドイツ・フラン

ス・ロシア・スペイン・ポルトガルなどの日本語研究・日本語教育は、かなり長い歴史があります。日本でも、これらの国々の言語は、日本の近代化の歴史の中で、多く学ばれた研究されてきました。英語圏であるオーストラリアでも、最近では日本語研究・日本語教育が盛んです。したがって、これら欧米の諸言語と日本語との対照研究も多く、そのレベルもかなり高いようです。特に英語との対照研究の著書・論文は数え切れないほどです。

またブラジルなど中南米の国々には日系人も多く、日本語教育も盛んです。彼らの母語は主にスペイン語ですから、最近ではスペイン語と日本語の対照研究も出てきました。

本稿では、これらの対照研究について、いちいち詳しく説明する余裕はありません。興味のある方は、下の文献のリストから選んで、直接読んでみて下さい。この文献リストは、単行本を中心に、なるべく手に入りやすいもの、実践にも役に立ちそうなものを選んでみました。

以上対照研究について簡単に述べましたが、さらに詳しくは奥津（1990）を参照してください。

## 参考文献

### 対照研究一般

- 石綿敏雄・高田 誠（1990）『対照言語学』桜楓社
- 奥津敬一郎（1990）『日本語教育のための対照研究』『日本語教育』72号
- ティ ビエトロ、R. J.（1974）『言語の対照研究』（小池生夫訳）大修館
- 林 四郎編（1986）『応用言語学講座 第2巻 外国語と日本語』明治書院
- 森岡・宮地・寺村・川端編（1982）『講座 日本語学 10・11・12 外国語との対照研究』明治書院
- ラドー、R.（1959）『文化と言語学』（上田明子訳）大修館
- ※なお、対照研究に関係のある論文がよく載る雑誌として、『月刊 言語』大修館、『日本語学』明治書院、『日本語教育』日本語教育学会 などがあります。

### 中国語との対照研究

- 大河内康憲編（1992）『日本語と中国語の対照研究論文集（上）（下）』くろしお出版
- 国立国語研究所（1989）『日中対照研究文献目録』
- 望月八十吉（1974）『中国語と日本語』光生館
- 楊凱榮（1989）『日本語と中国語の使

役表現に関する対照研究』くろしお出版

### 韓国語との対照研究

- 洪思満（1990）『現代韓国語の特殊助詞の研究 日本語の副助詞との対比を中心に』慶北大学校出版部
- 黄・李・李・張（1988）『教材編纂을 위한韓日語対照研究』（教材編纂のための韓日語対照研究）明志出版社
- 黄聖圭・李漢 婁（1989）『韓国日語日語研究文献書誌』時事日本語社
- 任榮哲（1993）『在日・在米韓国人および韓国人の言語生活の実態』くろしお出版
- 森田芳夫（1983）『韓国学生 日本語学習에 있어서의誤用例』（韓国学生の日本語学習における誤用例）誠信女子大学校出版部
- 横山景子・李在斗（1991）『Koreanese 한국인이 잘못 쓴 日本語』（韓国式日本語 韓国人がよくまちがえる日本語）時事英語社
- ※国立国語研究所でも文献目録を編集

### 英語との対照研究

- 井上和子（1978）『日英対照 日本語の文法規則』大修館
- 国広哲弥編（1980～82）『日英語比

較講座』全5巻 大修館

- フリーズ、C. C.（1957）『外国語としての英語の授業と学習』（太田朗訳）大修館
- 水谷信子（1985）『日英比較 話しことばの文法』くろしお出版

### ドイツ語との対照研究

- 国立国語研究所（1984）『言語行動における日独比較』三省堂
- 小坂光一（1992）『応用言語科学としての日独対照研究』同学社
- 浜崎・野入・乙政編（1985）『日独語対照研究』大学書林
- Kaneko, T. und G. Stickel (hrsg.) (1983, 1984, 1987) *Deutsch und Japanisch im Kontrast*. (日独対照研究) Bd. 2, Bd. 1, Bd. 4, Julius Groos

### フランス語との対照研究

- 国立国語研究所（1986）『日仏語の基本語彙の対照言語学的研究論集』
- 日仏語対照研究会（1994）『日仏語対照研究論集』

### スペイン語との対照研究

- 国立国語研究所（1994）『日本語と外国語との対照研究 I スペイン語(1)』くろしお出版

タイトル名の後の（ ）内は日本語の仮訳